

# 美らビーチクリーンプロジェクト

## (CFB・海と日本・2022)

### 美らビーチクリーンプロジェクト実行委員会

#### <イベント連携強化で観光立県“沖縄”の強みを活かす！>

少しずつイベントが開催されるようになり、イベント連携モデルの強化を推進。「ゴジラ対沖縄」との連携ではイベントが開催された国際通りの中心地で清掃活動を実施し、多くの観光客やイベントのファン層を取り込んだ。3年ぶりのリアル開催となった「那覇大綱挽まつり」「浦添てだこまつり」では、親子連れをはじめとした幅広い世代の人が集まる会場で海洋ごみ問題に関する啓発キャンペーンや清掃活動を実施した。海洋ごみ出前授業では授業後の子どもたちから「マイクロプラスチックごみについて知ってびっくりした」「ごみ拾いをして沖縄の海を守りたい」など意識変容に繋がるきっかけを創出した。レンタカー連携事業では実際の利用者から「これからは海へドライブしながら目についたごみだけでも拾うようにしたい」と日常的な意識変容に繋がるコメントが得られ、さらに今年度は参画企業をもう1社増やすことができた。市街地で行うごみ拾いイベント「街マナティ」を定期開催。近隣企業だけでなく下校中の学生の参加も増え、さらなる幅広いコミュニティの場としての育成を図る。大学生連携では有志として集まった大学生を中心にイベントの立案・SNS発信・運営を行い、清掃活動の枠を超えた新たな交流の場としての機会を創出した。

### 2022年度 実施状況について

<p>■異分野コンテンツ連携モデル ＜課題・背景＞ ごみを出さない、ごみを拾うという、双方の活動に共感し、実践する人が限られている。</p>	<p>■海洋ごみ教育推進モデル ＜課題・背景＞ 海に囲まれた離島県であるにも関わらず、「海洋ごみ問題」を学ぶカリキュラムが教育現場に少ない。</p>	<p>■観光インフラ巻き込み型モデル ＜課題・背景＞ 沖縄の観光資源の象徴である「綺麗な海」。しかし、近年漂着ごみの問題が顕在化してきている。</p>	<p>■非接触型清掃イベント ＜課題・背景＞ 海洋ごみの一因となる街ごみが、コロナ禍での路上飲酒により増加傾向にある。</p>
<p>・概要：「ゴジラ対沖縄」イベントとの連携 ・目的：開催期間中のGW盛り上げ施策および海洋ごみ問題の普及促進 ・場所：那覇市 ・連携先：(株) Little Monsters、那覇市 ・効果：企業・団体、イベントを楽しんでいたファンの方々約70名に参加頂き、3時間で23袋を回収。飲食店に囲まれた公園内にポイ捨て防止啓発看板を設置した2週間後、目立ったポイ捨ては見受けられなかったため、清掃活動・看板設置による一定の成果ではないかと考える。</p>	<p>・概要：小学生を対象にした海洋ごみの出前授業の実施 ・目的：「海洋ごみ問題」と自分たちの生活を結び、日ごろの行動を見直す学びのキッカケを作る。また、漂着物や周辺の生物の視点を入れることで、単なるごみ問題に留まらず、海ごころを育む。 ・場所：沖縄県内 ・連携先：沖縄県教育庁、各自治体教育委員会 ・効果：現時点で合計5校、延べ300名の児童へ海洋ごみ出前授業を実施。児童から「生食物がマイクロプラスチックを食べているのがびっくりした」「ごみ拾いをして自分の沖縄の海を守りたい」などの反応があり、アンケートで約8割の児童が「自分の意識が変わった」と答え、意識変容の一助となった。</p>	<p>・概要：レンタカーを利用する観光客に対し、観光地やビーチでのごみ拾い活動を促進するCP。 ・目的：観光客が積極的に清掃活動に携わる機会を創出し、住む人訪れる人、皆で守る意識を醸成する。 ・場所：沖縄県内 ・連携先：トヨタレンタリース沖縄、スカイレンタカー ・効果：利用者から「海へドライブしながら目についたごみを拾うようにしたい」と意識変容に繋がるコメントが得られた。活動に賛同頂いた連携先をもう1社増やすことができ、啓発ステッカーを昨年から1,000枚増やして実施した。</p>	<p>・概要：街マナティ（手ぶらで参加できるごみ拾いイベント） ・目的：“集合時間の無い”ごみ拾いを定期的に実施し、清掃活動をキッカケにした周辺企業の社交の場を作る。 ・場所：那覇市内 ・連携先：プロジェクトマナティ、各自治体・参加企業 ・効果：月に1回のペースで開催し延べ400人が参加、合計188袋のごみを回収した。企業・団体にかぎらず中高校生の参加が増えており幅広い層に認知が拡大している。</p>

その他：那覇大綱挽まつり・浦添てだこまつり連携、大学生連携モデル連携、スポGOMI甲子園を実施

### メディア露出



5/18 「海DO宝」  
ゴジラ対沖縄イベント連携

9/7 「海DO宝」  
スポGOMI甲子園 沖縄県大会

10/6 「海DO宝」  
レンタカー連携

10/26 「海DO宝」  
那覇大綱挽まつり連携

その他：応援動画7本、情報番組2回、報道番組2回取り上げ WEB15本 掲載

### 2022年度の課題とこれからの展望

- ・withコロナでのイベント開催に伴い、昨年よりも条件緩和されつつある中で企画運営を実施した。非接触でのごみ拾い×大人数でのイベントモデルを持続可能なごみ拾い連携モデルとして全県へ波及拡大させていく。
- ・次年度に向け、イベント企画だけでなく、より日常の中でごみ拾いの意識のための施策を強化。「拾い箱」の設置や健康課題と掛け合わせた「ウォーキング」企画と絡め、いかにごみを出さないようにするか日常的に「自分ゴト化」して考えてもらう機会の創出を図る。